

2016 年 6 月 30 日

14 ブロック 各チーム代表者・監督 様

(公益財団法人東京都サッカー協会)

東京都少年サッカー連盟

第 14 ブロック委員長 森泉 潤

「熱中症対策ガイドライン」における 14 ブロックの対策について

先般、東京都少年サッカー連盟より「熱中症対策ガイドライン」が策定され、加盟各チームの皆様へガイドラインが展開され、既に各チームでは対策がなされていると思いますが、14 ブロックはガイドラインの指針に基づき、具体的にどのような対策を行うかを役員会で討議、確認を行いました。

大会公式試合、練習試合やチーム練習の活動前の対策を含めてブロックが掲げる安全対策を以下に決めました。全てのチーム指導者、関係者の皆様に周知徹底して下さるようお願い致します。

記

◆JFA 及び東京都少年サッカー連盟「熱中症対策ガイドライン」の取組みに基づき、ブロック大会、トレセン活動及びその他あらゆる活動の安全を優先とする。

I 原則・・・黒球式熱中症指数計(WBGT 指数計測器)の準備

①WBGT 値(暑さ指数←気温とは異なります)が 31℃以上の場合は試合を行わない。

②WBGT 値(暑さ指数←気温とは異なります)が 28℃以上～31℃以下の場合は会場判断で試合開催の有無を決定。

※会場利用時間が 1 日確保できる場合は試合を早朝、夕方等に分けて実施する等検討する。

③WBGT 値が①、②以下の場合は、これまで通り会場判断に基づき試合を行う。

④上記①、②のことから安全面を最優先と捉え 7、8、9 月中はブロック開催の全ての試合を 30 分試合(15 分ハーフ)とし、各会場で黒球式熱中症指数計を設置する。(指数計は各チーム 1 個常備を推奨します)

※試合会場で指数計が用意できない場合は、事前にブロック運営部の市担当へ問い合わせる。
又は会場において気温 35℃を WBGT28℃とみなし判断する。

※9 月中旬より開催する全日本少年サッカーブロック予選においては、天候と安全面に配慮して 40 分試合(20 分ハーフ)で行う。

Ⅱ 試合・会場における対策

- ① WBGT 値に関わらず運営本部・両チームベンチにはテント設置を義務付ける。ただし、スペース等の問題でベンチにテント設置を行えない会場では、ベンチ以外の場所に控え選手が待機できる日陰の場所を確保すること。
- ② WBGT 値 28℃以上の場合、各試合ハーフ単位の間頃を目安に試合時間に含めない 3 分間のクーリングブレイクを取り、選手と審判員はスポーツドリンク等の飲水、及び、身体冷却を行う。
※クーリングブレイク時は、選手はピッチから出て良くベンチに入り、飲水だけでなく身体冷却を行うようにすること。身体冷却を行っている間の戦術的な指示も認める。
- ③ 各試合のハーフタイムは原則 5 分、状況によって 8 分も認める。
- ④ ハーフタイム、クーリングブレイク時にテントの有無に関わらずベンチに日陰が無いときはベンチ外の日陰で休息をとることを認める。
- ⑤ WBGT 値に関わらず本部、及び、試合を行うチームから申し出があれば主審の判断で飲水タイム、または、クーリングブレイクを設けることとする。
- ⑥ クーリングブレイクを優先するため、試合後の相手ベンチへの挨拶等は省略して各チーム試合間の時間短縮に努める。本部も試合開始前にその旨を説明し促す。
- ⑦ ゴールキーパーは飲水用ボトルを備え、ゴールわきでの飲水を勧める。
- ⑧ WBGT 値に関わらず試合中においてもベンチに日陰が無いとき、控え選手はベンチ外の日陰で待機することを認める。ただし、ベンチ外で待機していた控え選手が出場する際には第 4 審判員・予備審判員からメンバーチェック・用具チェックを受けてから出場すること。

◆加盟チームの皆様へ◆

選手が安全にプレーできる環境を整備することを第一にブロック役員一同は、最善の策を考えて競技・運営が安全に遂行できることに努めています。

熱中症は当日の天候に起因すること以外に選手自身の健康状態も大きく影響します。ご家庭、各チームで選手の健康状態には気を配り、安全管理を徹底して行っていただくようお願い致します。

熱中症が選手の生命にかかわることを再認識していただくとともに、熱中症対策ガイドラインを十分理解のうえ、大会及びブロック活動に備えて下さい。